

Activity	世帶員	獨身者	計	百分比
趣味嗜好別				
酒	三	二六	二九	〇.七八
酒 · 音樂	一	二六	二七	〇.一九
酒 · 子供	一	一	一	〇.〇三
酒 · 勝負事	二	一	三	〇.〇八
酒 · 働く事	一	一	二	〇.〇三
酒 · 煙草 · 女	一	一	二	〇.〇三
酒 · 音樂 · 女	一	一	二	〇.〇三
酒 · 音樂 · 活動	一	一	二	〇.〇三
酒 · 煙草 · 讀書	一	一	二	〇.〇三
酒 · 活動 · 女	二	一	三	〇.〇八
酒 · 煙草 · 勝負事	四	一	五	〇.一三
煙草 · 讀書	五	一	六	〇.〇六
煙草 · 女	三	六	九	〇.二四
煙草 · 菓子	一	一	二	〇.〇五
煙草 · 將棋	四	一	五	〇.一三
讀書	六七	三四	一〇一	一〇.五七

一七八

Activity	世帶員	獨身者	計	百分比
讀書 · 酒	一	二	三	〇.〇五
讀書 · 運動	一	二	三	〇.〇五
讀書 · 雄辯	一	二	三	〇.〇五
讀書 · 競馬	一	二	三	〇.〇五
音樂	三三	四三	七六	一.七六
音樂 · 活動寫真	六	一〇	一六	〇.四三
音樂 · 小說	一	一	二	〇.〇二
音樂 · 寫真	一	一	二	〇.〇二
音樂 · 讀書	一	五	六	一.五四
音樂 · 芝居	一	一	二	〇.〇二
音樂 · 女	一	二	三	〇.〇五
音樂 · 英語	一	二	三	〇.〇二
活動寫真	五	二	七	四.七一
活動寫真 · 讀書	二	三	五	〇.五八
活動寫真 · 寫真	一	一	二	〇.〇二
活動寫真 · 拳闘	一	一	二	〇.〇二
活動寫真 · 撞球	二	一	三	〇.〇五

一七九

趣味嗜好別	世帯員	獨身者	計	百分比
趣味嗜好別				
子供の教育	二	一	三	〇・〇二
芝居	三	二	五	〇・四〇
散步	一	二	三	〇・〇五
遊興	一	一	二	〇・〇五
仕事	一	二	三	〇・〇八
無事	二二二	一三三	三四四	九・三〇
不明	一九七	五九	二五六	六・九二
合計	一、九三三	一、七六六	三、六九九	一〇〇・〇〇
百分比(%)	五二・二六	四七・七四	一〇〇・〇〇	

7. 内地の生活と郷里の生活

内地在住の朝鮮労働者は、朝鮮より内地の方が生活のために遙かに樂だと云ふ者が多い。その苦樂の根據は固より各人各様同一範疇に屬するものではないが、彼等が祖先代々墳墓の地、住み馴れた生れ故郷の懐しさも捨て、一言の下に内地が良い、内地が樂だと云ふのは、一寸解釋に苦しむ點もあるが、彼等の云ふ苦樂は便利、不便、或は文化的方面を指すものでなく、主として經濟的意味を含むのである。生活の意味もこの場合には殆んど衣食住の範圍を出でゝはゐないのである。

その理由となる所を二三例舉して見れば樂なる理由としては

『内地は朝鮮に比して勞働賃銀が高いから』
と云ふものが最多數を占め、

『内地は仕事が多いから』等の如きもので
苦の理由としては

『物價が高いから』と稱するもの最も多く、次いで

『仕事に骨が折れるから』

『内地の食物は口に合はぬから』

『人情が薄いから』

等の如きものがそれである。

本調査に於て、得た結果も苦、樂の比率が次の如く世帯持に於て六〇・四二%、單獨者に於て六九・八八%のも
のが内地の生活の方が樂だと云つてゐる。

内地の生活と郷里の生活調

(表の四五)
世帯持

現職業	樂	苦	同	不明	計
一、農 業	四	一	一	一	七
二、水 産 業	一	一	一	一	四
三、鑛 業	三三	一	一	一	三六
					三四

現職業	業	苦	同	不明	計
四、工業	三八七	一二七	一四六	三	六六三
五、商業	一三八	二一	三十一	二	一九二
六、交通業	三二	七	七		四五
七、公務自由業	二〇	六	一		二七
八、其他有業者	五五〇	二二四	一五三	八	九二五
九、失業		一四			一四
二〇、無職	四	一七	五	二	二八
二、不明	一				一
合計	一、二六八	四〇七	三四三	一五	一、九三三
百分比(%)	六〇・四二	二一・〇六	一七・七四	〇・七八	一〇〇・〇〇

内地の生活と郷里の生活調

(表の四六)
単獨者

現職業	業	苦	同	不明	計
一、農業					
二、水産業					
三、鑛業	五五	一			五六

現職業	業	苦	同	不明	計
四、工業	四九五	一二一	七一	八	六九五
五、商業	一五一	三七	一五		二〇三
六、交通業	三九	三〇	二二		九一
七、公務自由業	二一	一	一		二三
八、其他有業者	四五九	一五三	五六	二	六七〇
九、失業		六	一		七
二〇、無職	二	五	二		九
二、不明	一二				一二
合計	一、二三四	三五四	一六八	一〇	一、七六六
百分比(%)	六九・八八	二〇・〇四	九・五一	〇・五七	一〇〇・〇〇

右の如く郷里の生活より内地の生活の方が樂であるといふ者が絶對多數の状態であるから、今後内地に永住の意志を持つ様になることも亦當然と云はねばならぬ。従つて、次表に示す如く五七・四七%が内地に永住の意志を持つてゐるのであるが、これを昭和三年當時の調査に比すれば、昭和三年當時には永住の意志を有する者が非常に少かつたにも拘らず、本調査に據ればそれが恰も逆なる状態となり、漸次永住するものが増加して來てゐる。この傾向は彼等朝鮮人労働者が文化的方面に目覺め、又内地人も彼等を分け隔てしなくなつた、融和の實績をそこに見ることが出来るのである。

昭和三年調査

世帯員	永住	否	未定	不明	一〇〇・〇〇%
獨身者	一四・五〇	六七・五〇	六・〇〇	—	一〇〇・〇〇%
合計	七七・〇〇	三・八八	四・六三	一〇〇・〇〇	

永住か否か (表の四七) 世帯員・單獨者

種別	世帯員	單獨者	計	百分比
永住	一、三〇三	八三三	二、一三六	五七・四七
否	四〇〇	六七五	一、〇七五	二九・〇六
未定	一一〇	一四四	二六四	七・一四
不明	一一〇	一二四	二三四	六・三三
合計	一、九三三	一、七六六	三、六九九	一〇〇・〇〇

8、選挙権の有無

來住期間に附隨して、永く内地に居住するものには、當然選挙権及び被選挙権の問題が附隨して來る。目下この問題は朝鮮人間に相當關心を有つ事柄で、公民権を獲得し内地人と同様、市民としての權利義務を主張しやうとするものである。本調査に於て調査する處に據れば有権者は、世帯持に多く單獨者に少い。而して前者は五割弱、後者は約二割五分で總數より見れば三割となつてゐる。

選挙権の有無調 (表の四八) 世帯持・單獨者

選挙権を有するもの	世帯員	單獨者	合計	百分比
選挙権の有するもの	八六五	四二二	一、二七七	三四・四四
選挙権の無きもの	一、〇七七	一、三五四	二、四三一	六五・五六
合計	一、九四二	一、七六六	三、七〇八	一〇〇・〇〇
有権者の居る世帯數	八五六	四二二	一、二六八	

9、原籍地

本調査に於ける被調査者の原籍地を調査するに、世帯持に於ては、慶尙南道が七五七—三九・二%、慶尙北道が五六七—二九・三三%を占めて居り、單獨者に於ても慶尙南道が五五九—三一・六五%、慶尙北道が四四三—二五・〇八%の絶對多數を占めて居る状態で、之は内地と朝鮮との地理的接近から來る現象で前記二道はその距離極めて近く、渡航に費す時間も僅か十時間を要せぬ處から該兩道のもののが最も多く渡航をなしてゐると見て良いのである。之を表示せば左の通りである。

原籍地調 (表の四九) 單獨者

原籍地	男	女	計	百分比
原籍地	五六	一	五六	三・一八
京畿道	五七	一	五七	三・二三
忠清北道	五九	一	五九	三・三四
忠清南道	八〇	一	八〇	四・五三
全羅北道	二三一	一	二三一	一三・〇八
全羅南道	四三九	四	四四三	二五・〇八
慶尙南道	五五七	二	五五九	三一・六五
慶尙北道	四五	一	四五	二・五五
黃海道	三四	一	三五	一・九二
平安北道	四七	一	四七	二・六六
平安南道	三五	一	三五	三・一二
江原道	五五	一	五五	一・九八
咸鏡北道	六二	一	六二	三・五一
咸鏡南道	三	一	三	〇・一七
間島	一、七六〇	六	一、七六六	一〇〇・〇〇
合計	九九・六五	一〇・三五	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇

一八八

原籍地調

(表の五〇世帯持)

原籍地	男	女	計	百分比
原籍地	五〇	一	五一	二・六四
京畿道	五八	一	五八	三・〇〇
忠清北道	六九	一	六九	三・六二
忠清南道	五八	一	五八	三・〇〇
全羅北道	二四八	一	二四八	一・二八三
全羅南道	五六五	二	五六七	二九・三三
慶尙北道	七五六	一	七五七	三九・一一
慶尙南道	二九	一	二九	一・五〇
黃海道	二九	一	二九	〇・四七
平安北道	二七	一	二七	一・四〇
平安南道	二七	一	二七	一・一九
江原道	二七	一	二七	一・一九
咸鏡北道	一四	一	一四	〇・七二
咸鏡南道	一四	一	一四	〇・七二
合計	一、九二九	四	一、九三三	一〇〇・〇〇

一八九

V
結

語

前數章の記述に於て、在京朝鮮人労働者の生活實相の全貌を描き得ることは不可能であつたにしても大體のア
ウトラインを探知し、該問題の核心が那邊に存し、且つ將來の歸趨に對する見透しはついたものと信ずる次第で
ある。

昭和四年度に、施行を了した東京府に於ける同種の調査の卷末を播けば、『吾々のこの調査を通じて得たる常
識は將來に於てまた現在に於て樂觀すべき問題ではなくして、この問題は、更に更に憂慮に堪へざる状態である
ことを認識したのである。しかしながら吾々はこの一事實に依つて全般を悲觀し、絶望を感じるものでなきは勿
論である。憂慮必らずしも悲觀に通するものではない』と論斷してゐるが、現今の状勢に之を照らして見ればそ
こに何物か適中せるものがあると思考されるのである。それほどに、當時と現在とはその内容と實狀に進歩向上
の變化を及ぼしてゐるのが事實であるが、しかしその完全なる解決は更にまた茲數十年の後に於て望むべきもの
と信ずるものである。

吾々は、以上の各章論に於て、彼等の生活を中心として、労働の狀態、雇傭及勞務の條件、失業狀況、住居、生
計の實狀、其他を論述したのであるが、問題の核心が特殊的性質に富む關係上、一般的労働問題と比較して、相
當波瀾曲折に富みその解決の如きも一般の問題と切離して獨自的若くは、單一的解決を要する問題が、數々秘む
でゐることに氣附くのである。就中、彼等の住居、生計を中心とする生活實狀は、何れの問題よりも複雑多岐に
亘り將來に於ても此の問題は朝鮮人労働者問題の解決を要する最後の段階として種々なる事象を提供するであら
うことを豫見するのである。又、之に隨伴する風紀、保健、衛生、乳幼児の保育、就學兒童の通學問題等は、直
接關聯を有する重要な問題で、現今に於て、已に數々の難問題を提供してゐる。之がため、府下に於ける各保護

施設は、最善なる活動を以て、生活の救護、改善、向上、等々のため活躍しつつあるが、最近に於ける朝鮮人保
護施設が、地區單位の隣保的事業の施設化する傾向を辿りつゝあるために、個體的に見て事業の確實性と、機能
を發揮する上に遺憾のない處であるが、全般的に見ると連絡統制の缺如せる感を抱かせしめ、一難去り、又、一
難來りの感を更に深くするものがある。斯く論じて來れば、朝鮮人労働者問題は、恰も、百麻亂靡の状態で、そ
の何れを手近に解決すべきかに迷はざるを得ないものである。けれども之が唯一の對策としては、その根本に逆
つて、朝鮮人労働者の渡航の原因を研究し、彼等が祖先傳來の農業に従事し、生活に勤んで來た土地に執着を持
つやうに指導を爲す傍ら、安住の出來る様な生活の方法を授ける方法を、講ずることが何より先立つ問題と信ず
るものである。之は彼等の内地渡航を阻止する何より優る自然の途とせねばならぬ。

吾々は、現在彼等の生活を靜視した場合、内鮮融和の方法により之等生活問題を緩和、解決せんとする人々の
努力と、熱誠には敬意を拂ふのであるが、目前の近途は、彼等の實生活問題の緩和と、解決が誠に重大なるもの
と信ずる次第である。何故ならば、彼等は、非融和が原因で内地渡航を企てたのでもなければ、そのために依る
貧困者でもない。喰はんがため、活るがために現在の境遇に墜つたに過ぎないからである。

いまや、朝鮮人労働者の問題は、輿論の時代ではなく、その解決のための實行の時代であり、解決の曙光に近
い段階に迄到達してゐる。吾々は斯る、いま一息といふ瀬戸際に際して、更に、官民一致協力を以て、彼等の生
活の向上と、福祉増進のため努力することを衷心より祈るものである。

本調査がそのために多少なり共寄與する處となり、拍車ともなり得れば調査者の目的は足りる譯である。(念)

附 調査に就て

本調査は、昭和三年本課に於て施行せる已刊「在京朝鮮人労働者の現状」の調査方法に準據して、各項目につき調査せるものであるが、其の後に於て發生せる、特に目立つ事象を添加し、遷移の状態を比較研究したるものが本調査である。

調査の目的 朝鮮人労働者の内地移住は、社會の各方面に多くの關心と懸念を投げかけて、已に永い星霜を重ねてゐる。大都市は勿論如何なる山間僻地に於ても、彼等の姿を見ない處はないと云つて良い程朝鮮人労働者は全国的に散布し、本府管下に於ても目下四萬の在住數を以て算する状態である。

朝鮮人労働者の移住の結果は、失業問題及住居問題等に於て、一大社會問題を惹起するに至り、内鮮融和に於ても相當憂慮すべき事象が數々あるので、之に鑑み府下に於ける、朝鮮人労働者の分布状態、生活並生計、住居、雇傭關係、失業問題、其他生活實狀を調査し、之が對策の基本資料を得ると同時に、一般の參考に供せんとするものが本調査の目的である。

調査の經過 本調査は在京朝鮮人の自由労働者、工場労働者、雜役、行商、人夫請負等に就て、府下各朝鮮人保護施設及簡易宿泊所内に住泊するもの及び各地に分散居住するものを調査せるものである。

之が調査に際しては警視廳内鮮課及各警察署に照會を發し、彼等の集團地區を明確に調査したる後、各調査項目に付き、相愛會館、大同協會、力行社、東亞協會、東光一心會、榮尚協會等の府下各朝鮮人保護團體の手を通じ、また本府調査員直接集團地區を訪問して實際調査を爲せるものである。

茲に厚く各保護團體の勞を謝する次第である。

調査事項 本調査に用ひた調査票は左の雛形に示す世帯票(乙表)並びに單獨票(甲表)の二種である。

No. _____

朝鮮人労働者調査票 東京府社會課

姓名		原籍地		道	年	齡	歲	住所
渡航年月	年ヶ月	在京年月	年ヶ月	郷里に於ける業				
現在の職業		四月中に於ける勤勞日數		四月中に於ける失業日數				
就職の方法	利用機關	労働の有無	渡航理由					區郡 町 番地
四月中の収入	勤勞收入	四月中の支出		住居費				
	其他の収入			飲食物費				
				被服費				
				薪炭燈火費				
	計			其他の費用				
教育程度		住居	賃間	借家	部	木賃宿	宿泊所	
健康状態		宗教別	趣味					
配偶者の有無		一ヶ月平均貯金	一ヶ月平均送金					
渡航當時旅費以外の所持金		内地生活は郷里より樂か否か	永住か否か					
備考	公	私	救	助				
	1	方	面	委	員食券の有無			
	2	券						
3	診	療	券	有無				
	選	舉	權					
				同 同 同 人				
				調査員				
				調査日				
				月				
				日				

(單獨者用) 甲表

No.

朝鮮人労働者調査票 東京府社会課

(世帯用)乙表

世帯主名		原籍地		道	年	齡	歳	住所
渡航年月	年ヶ月	在京月日	年ヶ月	郷里に於ける業職				
現在の職業		四月中に於ける勤勞日數		四月中に於ける失業日數				
就業の方法 利用機關		労働記録の有無		渡航理由				
四月中の収入	勤勞収入		四月中の支出		住居費		區郡	
	配偶者の収入				飲食物費		町	
	子女の収入				被服費		番地	
	其他の収入				薪炭燈火費			
	計		計		其他の費用			
住居狀況		戸建	室數	疊數	疊家賃			
教育程度		宗教別		趣味				
健康狀態		一ヶ月平均貯金		一ヶ月平均送金				
渡航當時旅費以外の所持金		内地生活は郷里より樂か苦か		永住か否か				
家族狀況	世帯主との続柄	性別	年齢	職業	教育程度	四月中の収入	備考	調査員
							公私救助	調査月日
							1方面委員	券内
							2食療	券内
							3診療	券内
						選舉權	有無	日

調査時期及び調査票數 本調査の實際訪問を爲せるは、昭和九年十一月より同十年二月に至る四ヶ月間であるが、各項目の記入は大體に於て調査當日の前月末を現在として調査せるもので、之が實施の結果回收を爲し調査對象と認定せる調査票數を地區別に分類すれば左掲の通りである。

地 區 別	世 帯 票	單 獨 票	合 計
麴 町 區	三 千	三 千	六 千
神 田 區	一 千	一 千	二 千
日 本 橋 區	二 千	三 千	五 千
芝 罘 區	一 千	一 千	二 千
麻 布 區	一 千	一 千	二 千
赤 坂 區	二 千	一 千	三 千
四 谷 區	三 千	一 千	四 千
京 橋 區	三 千	一 千	四 千
平 込 區	一 千	一 千	二 千
小 石 川 區	七 八	一 〇	一 七 八
米 郷 區	二 〇 千	五 千	二 五 千
下 谷 區	三 四	三 六 四	三 九 八
淺 草 區	一 〇 〇	一 〇 〇	二 〇 〇
合 計	二 三 七	九 五	三 三 二

地區別
 本所區
 深川區
 品川區
 目黒區
 荏原區
 大森區
 蒲田區
 世田谷區
 澁谷區
 淀橋區
 中野區
 杉並區
 豐島區
 瀧野川區
 荒川區
 王子區

世田谷區
 三三
 二〇四
 二八
 三五
 四三
 二一
 一七
 一
 二六
 一九
 三三
 三三
 二
 三九
 三九

單獨票
 三八〇
 五五
 四
 六
 一八
 一三
 二二
 二九
 三六
 一八
 三五
 二七
 一
 三七〇
 一六

一九八
 合計
 四一
 二五九
 三四
 三九
 六一
 三三
 二九
 二九
 六二
 三七
 六七
 四〇
 二
 七六九
 五〇

板橋區
 足立區
 向島區
 城東區
 葛飾區
 江戸川區
 八王子市
 西多摩郡
 南多摩郡
 北多摩郡
 合計
 百分比(%)

一四
 六
 一七二
 一八〇
 六八
 五四
 九
 一七
 一一
 六八
 一九三三
 五二・二六

八
 二二
 一六一
 四六
 一二
 三〇
 一八
 二四
 二〇
 一四二
 一七六六
 四七・七四

二二
 二八
 三三三
 二二六
 八〇
 八四
 二七
 四一
 三一
 二二〇
 三、六九九
 一〇〇・〇〇

朝鮮人の密集地	一四六	一〇〇〇〇
朝鮮人の移住	一四七	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働	一四八	一〇〇〇〇
朝鮮人の生活	一四九	一〇〇〇〇
朝鮮人の教育	一五〇	一〇〇〇〇
朝鮮人の宗教	一五一	一〇〇〇〇
朝鮮人の政治	一五二	一〇〇〇〇
朝鮮人の経済	一五三	一〇〇〇〇
朝鮮人の社会	一五四	一〇〇〇〇
朝鮮人の文化	一五五	一〇〇〇〇
朝鮮人の風俗	一五六	一〇〇〇〇
朝鮮人の習慣	一五七	一〇〇〇〇
朝鮮人の言語	一五八	一〇〇〇〇
朝鮮人の文字	一五九	一〇〇〇〇
朝鮮人の音楽	一六〇	一〇〇〇〇
朝鮮人の美術	一六一	一〇〇〇〇
朝鮮人の文学	一六二	一〇〇〇〇
朝鮮人の歴史	一六三	一〇〇〇〇
朝鮮人の地理	一六四	一〇〇〇〇
朝鮮人の民族	一六五	一〇〇〇〇
朝鮮人の血統	一六六	一〇〇〇〇
朝鮮人の体格	一六七	一〇〇〇〇
朝鮮人の寿命	一六八	一〇〇〇〇
朝鮮人の疾病	一六九	一〇〇〇〇
朝鮮人の衛生	一七〇	一〇〇〇〇
朝鮮人の食生活	一七一	一〇〇〇〇
朝鮮人の衣生活	一七二	一〇〇〇〇
朝鮮人の住生活	一七三	一〇〇〇〇
朝鮮人の交通	一七四	一〇〇〇〇
朝鮮人の通信	一七五	一〇〇〇〇
朝鮮人の娯楽	一七六	一〇〇〇〇
朝鮮人のスポーツ	一七七	一〇〇〇〇
朝鮮人の芸術	一七八	一〇〇〇〇
朝鮮人の科学	一七九	一〇〇〇〇
朝鮮人の技術	一八〇	一〇〇〇〇
朝鮮人の職業	一八一	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働時間	一八二	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働条件	一八三	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働組合	一八四	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働争議	一八五	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働立法	一八六	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働行政	一八七	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働教育	一八八	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働訓練	一八九	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働福利	一九〇	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働安全	一九一	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働衛生	一九二	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働救済	一九三	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働相談	一九四	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働仲裁	一九五	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働裁判	一九六	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働紛争	一九七	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働調停	一九八	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働和解	一九九	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働協約	二〇〇	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働契約	二〇一	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二〇二	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二〇三	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二〇四	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二〇五	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二〇六	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二〇七	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二〇八	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二〇九	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二一〇	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二一一	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二一二	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二一三	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二一四	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二一五	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二一六	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二一七	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二一八	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二一九	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二二〇	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二二一	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二二二	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二二三	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二二四	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二二五	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二二六	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二二七	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二二八	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二二九	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二三〇	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二三一	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二三二	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二三三	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二三四	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二三五	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二三六	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二三七	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二三八	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二三九	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二四〇	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二四一	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二四二	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二四三	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二四四	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二四五	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二四六	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二四七	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二四八	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二四九	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二五〇	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二五一	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二五二	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二五三	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二五四	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二五五	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二五六	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二五七	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二五八	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二五九	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二六〇	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二六一	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二六二	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二六三	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二六四	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二六五	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二六六	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二六七	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二六八	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二六九	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二七〇	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二七一	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二七二	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二七三	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二七四	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二七五	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二七六	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二七七	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二七八	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二七九	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二八〇	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二八一	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二八二	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二八三	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二八四	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二八五	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二八六	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二八七	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二八八	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二八九	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二九〇	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二九一	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二九二	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二九三	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二九四	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	二九五	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規章	二九六	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規準	二九七	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規範	二九八	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規則	二九九	一〇〇〇〇
朝鮮人の労働規程	三〇〇	一〇〇〇〇

一、朝鮮人の移住
 二、朝鮮人の労働
 三、朝鮮人の生活
 四、朝鮮人の教育
 五、朝鮮人の宗教
 六、朝鮮人の政治
 七、朝鮮人の経済
 八、朝鮮人の社会
 九、朝鮮人の文化
 十、朝鮮人の風俗
 十一、朝鮮人の習慣
 十二、朝鮮人の言語
 十三、朝鮮人の文字
 十四、朝鮮人の音楽
 十五、朝鮮人の美術
 十六、朝鮮人の文学
 十七、朝鮮人の歴史
 十八、朝鮮人の地理
 十九、朝鮮人の民族
 二十、朝鮮人の血統
 二十一、朝鮮人の体格
 二十二、朝鮮人の寿命
 二十三、朝鮮人の疾病
 二十四、朝鮮人の衛生
 二十五、朝鮮人の食生活
 二十六、朝鮮人の衣生活
 二十七、朝鮮人の住生活
 二十八、朝鮮人の交通
 二十九、朝鮮人の通信
 三十、朝鮮人の娯楽
 三十一、朝鮮人のスポーツ
 三十二、朝鮮人の芸術
 三十三、朝鮮人の科学
 三十四、朝鮮人の技術
 三十五、朝鮮人の職業
 三十六、朝鮮人の労働時間
 三十七、朝鮮人の労働条件
 三十八、朝鮮人の労働組合
 三十九、朝鮮人の労働争議
 四十、朝鮮人の労働立法
 四十一、朝鮮人の労働行政
 四十二、朝鮮人の労働教育
 四十三、朝鮮人の労働訓練
 四十四、朝鮮人の労働福利
 四十五、朝鮮人の労働安全
 四十六、朝鮮人の労働救済
 四十七、朝鮮人の労働相談
 四十八、朝鮮人の労働仲裁
 四十九、朝鮮人の労働裁判
 五十、朝鮮人の労働紛争
 五十一、朝鮮人の労働調停
 五十二、朝鮮人の労働和解
 五十三、朝鮮人の労働協約
 五十四、朝鮮人の労働契約
 五十五、朝鮮人の労働規則
 五十六、朝鮮人の労働規程
 五十七、朝鮮人の労働規章
 五十八、朝鮮人の労働規準
 五十九、朝鮮人の労働規範

府下に於ける朝鮮人の密集地域に関する調査

一、調査の目的
 二、調査の範囲
 三、調査の方法
 四、調査の結果

朝鮮人の移住と労働

於けるに朝鮮人の密集地域に関する調査

—100世帯以上密集と認むる地域—

昭和九年四月現在調

A 小石川區 一地域

一、所在地

小石川區 戸崎町自一二至九八番地 久堅町自四九至一〇七番地 白山御殿町自八至一一三番地 氷川下町

自一至六五番地

俗稱 太陽のない街

二、地理的状況

イ、總坪數 二五〇〇〇坪

ロ、工場地帯

ハ、土地濕潤

道路不良

上水 共同水道

下水 完備せず

河川 千川(暗渠)

三、世帯數及人員

密集地域名	朝鮮人		内地人		計	備考
	世帯數	人員	世帯數	人員		
太陽のない街	101	333	126	359	73	7,352
	男	126	男	126	男	7,352
	女	126	女	126	女	7,352
	計	252	計	252	計	7,352

四、生活状態

イ、世帯主の職業種類別人員

- 自由労働者六三名 印刷職工九名 製本職工四名 鑄物工一名 金物工一名 ガラス加工職一名 ペンキ職一名 左官職二名 自動車運轉手六名 コック一名 糞尿汲取業一名 雜貨行商三名 荷馬車輓一名 洋服裁縫業二名 人夫請負業一名 音楽師一名 牛乳配達一名 新聞配達一名 外交員一名 靴直し一名 計一〇一名

ロ、收入程度

最高 五〇圓

最低 六圓

平均 二〇圓

ハ、住宅の概況

殆んど、トンネル長屋、或は共同長屋にして家屋を所有せる世帯なし。

五、地域發生の事情並に内鮮人の融和關係

二〇有餘年前、比較的生活し易き、千川と稱する小川の清流に沿つて小家屋を建て、居住する者が生じた。其後共同印刷其他の工場設立され、と共に、多數の職工がこの地に移り住み、バラック長屋が集團的に建てられ、自然に細民が多く集合するに至り今日に及ぶと言ふ。内鮮人關係は未だ疏遠状態にある。

B 豊島區 二地域

一、所在地

豊島區 西巢鴨一丁目三、〇〇八番地、三、三四〇番地、二丁目

俗稱 水久保

二、地理的状況

イ、總坪數 二、五〇〇坪

ロ、表裏通り住宅地帯

ハ、土地概して濕潤

道路

上水 共同水道

下水 完備せず

河川 なし

三、世帯數及人員

密集地域名	朝鮮人		内地人		計	備考
	世帯數	人員	世帯數	人員		
水久保	三三〇	三三〇	八〇〇	約 一、六〇〇	二、一三〇	
		男 女 計		男 女 計		
		男 女 計		男 女 計		

四、生活狀態

イ、世帯主の職業種類別人員

古物商三五人 土工入夫二五人 雜業四五人 其他五人 無職二〇人 計六二〇人

備考 無職は失業を意味する

ロ、収入の程度

最高二〇圓 最低七圓 平均一三圓五〇錢

ハ、住宅の概況

トタン葺バラック長屋(三戸建 四戸建)一〇棟

五、地域發生の事情並内鮮人の融和關係

關東大震災後舊市内に居住したる朝鮮人勞働者は家賃の關係上漸次移住増加したるものである。當方面に於ては内鮮人は何れも質朴にして互に親睦を圖り圓滿に行つてゐる。

II

一、所在地

豊島區 日之出町一丁目、二丁目、三丁目

二、地理的状況

イ、總坪數 三、〇〇〇坪

ロ、表通りは商店街にして裏通りは住宅地帯。

ハ、土地濕潤

上水 共同水道

下水 不完備

河川 なし

三、世帯數及人員

密集地域名	朝鮮人			内地人			計	備考
	世帯數	人員	世帯數	人員	世帯數	人員		
日之出町	110	300	100	200	210	1,150	3,750	人員數は概數なり
三丁目	3	10	1	5	2	1,150	3,750	
二丁目	1	5	1	5	2	1,150	3,750	

四、生活狀態

イ、世帯主の職業種類別人員

古物商三〇人 日傭人夫三〇人 雜業五〇人 其他五人 無職一五人 計一三〇人

ロ、收入の程度

最高三〇圓 最低一三圓 平均二一圓五〇錢

ハ、住宅の概況

バラック建共同長屋 四棟

バラック建 一戸建 二戸建 三戸建 二〇戸

五、地域發生の事情並内鮮人の融和關係

關東大震災後舊市内に居住したる朝鮮人勞働者は家賃の關係上漸次移住増加したるものである。當方面に於ては内鮮人は何れも質朴にして互に親睦を圖り圓滿に行つてゐる。

C 荒川區 二地域

I

一、所在地

荒川區南千住町一丁目、六丁目、七丁目

二、地理的状況

イ、總坪數 三、五〇〇〇坪

ロ、工場地帯なり

ハ、一丁目、七丁目の一部は濕地なれども其の他は乾地なり

道路、公道は完備せり

上水 水道

下水 開溝

河川 なし

三、世帯數及人員

密集地域に於ける

密集地域名	朝鮮人		内地人		計	
	世帯數	人員	世帯數	人員	世帯數	人員
南千住	三三	一三三	五、五八	二、九三三	五、九一四	三、七五七
一丁目	三三	一三三	三、三三	一、三三三	三、六六三	一、三三三
六丁目	三三	一三三	三、三三	一、三三三	三、六六三	一、三三三
七丁目	三三	一三三	三、三三	一、三三三	三、六六三	一、三三三

四、生活狀態

イ、世帯主の職業種類別人員

土工人夫二〇四人 工場労働者一〇人 行商二人 其他二七人 計二六二人

ロ、收入の程度

職業の種類別	一日の收入			一ヶ月の労働日數
	最高	最低	平均	
金屬屬工	一・八〇	一・八〇	一・四〇	二五日
ゴム職工	一・八〇	一・〇〇	一・三〇	二五日
皮革職工	二・二〇	一・〇〇	一・五〇	二七日
荷揚人夫	一・五〇	三〇	一・〇〇	二〇
工場雜役	一・二〇	七〇	八〇	三〇
土工人夫	一・六五	五〇	九〇	一〇日乃至一五日
自動車運轉手	二・五〇	一・三三	一・八〇	一〇日乃至一五日
新聞配達	八〇	三〇	五〇	一〇日乃至一五日
石材工	二・〇〇	一・二〇	一・五〇	二七日
裝飾品製造工	二・二〇	一・〇〇	一・四〇	二五日

職業の種類別	一日の収入			一ヶ月の労働日数
	最高	最低	平均	
文房具類行商	一・五〇	五〇	七〇	三〇日
餉行商	四六〇	二〇〇	三〇〇	天候により一定せず
平均	一・四九	六七	一〇八	

ハ、住宅の概況
内地人所有のバラック式平家建長屋多く、家賃の関係上二階建長屋は極めて少い。

五、地域發生の事情並内鮮人の融和關係
當地域の近傍周圍に隅田川驛、東京瓦斯會社瓦製造所、富士斯製紙會社工場、淺野自動車工場、新興毛織會社、日本石油會社、大日本紡績會社、日本畜産工業會社、千住製絨所等労働者の需用多き大工場等のあること、細民労働者の密集せる所である等の爲め鮮人労働者の生活し易い處だつた爲に當地域發生したるものゝ様である。
内鮮人の融和關係に就いて未だ良好なりとは云へない。

II

一、所在地

荒川區三河島町五、七、八丁目の一部(峽田、蓮田)

二、地理的状況

- イ、總坪數 三八、〇〇〇坪
- ロ、工場地帯
- ハ、土地 地 濕地
- 道 路 狭く悪し
- 上水水道
- 下水開溝
- 河川なし

三、世帯數及人員

密集地域名	朝鮮人		内地人		備考
	世帯數	人員	世帯數	人員	
朝 鮮 人	男	女	男	女	
計	計	計	計	計	
五〇	五六	一三一	七〇〇	五、〇三三	五、〇三三
五	七	一三	一、九三三	二、二六六	五、三七一
五	七	一三	一、九三三	二、二六六	五、三七一

四、生活狀態

イ、世帯主の職業種類別人員

金屬工業職工三五人 土工人夫二三〇人 ゴム工場職工一八人 其他六七人 計三五〇人
 収入の程度

職業の種類	一日の収入			一ヶ月の 労働日数
	最高	最低	平均	
金屬職工	一・五〇	八〇	一・二〇	二五%
日機械器具工	二・〇〇	一・〇〇	一・五〇	二六
皮革羽毛品製造工	二・三〇	一・〇〇	一・六〇	二八
被服身廻品製造工	一・八〇	九〇	一・四〇	二六
土工人夫	一・八五	一・三五	一・五〇	一五
自動車運轉手	二・五〇	一・五〇	二・〇〇	二八
新聞配達	六〇	四〇	五〇	三〇
荷馬車引	一・五〇	八〇	一・〇〇	二五
牛乳配達	一・五〇	八〇	一・二〇	三〇
平均	一・七三	九五	一・三四	

ハ、住宅の概況

朝鮮人所有のトンネル長屋 一棟

其他は内地人所有のバラック式平家建長屋

五、地域發生の事情並内鮮人の融和關係

當地域は近隣に隅田川驛の石炭庫、東京瓦斯會社等を始め多數の會社工場等があつて、多くの労働者を使
 用せることゝ、大正十二年の震災後家屋の不足を來せる際細民労働者街として發展の途にあつたので、朝
 鮮人労働者の居住に便利なる條件を具備せる爲め當地域を發生したるものゝ様である。
 内鮮人の融和關係な相互の言語、風俗、習慣人情等の相違により未だ良好とは謂はれぬ。

D 城 東 區 二地域

I

一、所在地

城東區大島町二丁目、三丁目、五丁目、八丁目

二、地理的状況

イ、總坪數 約一、二〇〇坪

ロ、工場地帯

ハ、土地 地 濕 潤

道路 幹線一條 他は未完成

上水 水道

下水 不完全にして豪雨の際は浸水す平常と雖も満潮時には下水溝閉塞し汚水汎濫す

ニ、前記の如く不健康地なるも個人衛生を重ずるの結果傳染病患者の發生は少ない
三、世帯數及人員

密集地域名	朝鮮人			内地人			計	備考
	世帯數	人員	計	世帯數	人員	計		
二三、五、六、七丁目	二五七	五九〇	五九〇	九九	三、七二七	三、七二七	三、七二七	
							三、四九八	
							三、九七五	

イ、世帯主の職業種類別人員

雜役人夫一五〇人 土方八七人 屠拾一〇人

ロ、收入の程度

最高二〇圓 最低六圓 平均一三圓

ハ、住宅の概況

住宅は二戸建、四戸建、六戸建多く、大部分は平屋である。鮮人の住居する家屋は總て借家であつて鮮人の建設せるものはない。バラック・トンネル長屋等はない。

ニ、家屋及其支拂狀況

家賃は六疊一室五圓程度であつて不拂者多く、中には長期に亘る滞納者がある。

五、地域發生の事情並内鮮人の融和關係

大正七八年頃砂町方面に運河開鑿に方り、該工事に従事する目的を以て來住するものを初めとし、其後當方面の工場に職を求むるため漸次來住増加せるものである。内鮮人は互に融和し其の關係圓滿である。

II

一、所在地

城東區南砂町二丁目、二丁目、北砂町白一目至五丁目

二、地理的状況

イ、總坪數 約一、〇〇〇坪

ロ、南砂町は住、工業地帯

北砂町一丁目は住、工業地帯、二丁目は商業地帯、三丁目は住、工商地帯五丁目は住宅地帯

ハ、土地 概して濕潤且つ排水の設備不完全なる爲め豪雨に際し浸水することがある。

道路 完全なるもの浦安街道(十二間道路)一條あるのみにて他は未完成である。

上水道

下水 設備不完全にして且つ滿潮時には海水の浸水を防止するため下水溝を閉塞する關係上汚水停滞し汎濫することがある。

河川 東に荒川放水路、大島町との境に小名木川、深川區との境に十間川あり。

ニ、土地は一般に低く概して濕潤なるが故に往々傳染病の發生を見ることあり。

三、世帯数及人員

密集地域名	朝鮮人			内地人			計	備考
	世帯数	人員	計	世帯数	人員	計		
南砂町	男 一五	女 二五	計 四〇	男 七	女 一四	計 二一	八〇六	一、七〇
北砂町	男 一五	女 二五	計 四〇	男 七	女 一四	計 二一	八〇六	一、七〇

四、生活状態

イ、世帯主の職業種類別人員

土工一五〇人 雑役人夫四一人 屑拾一五人

ロ、収入の程度

最高二〇圓 最低六圓 平均一三圓

ハ、住宅の概況

バラツク建共同長屋五棟 一戸建木造平屋四〇戸

バラツク建共同長屋は朝鮮人の建設せるものであつて其他は凡て借家である。

五、地域發生の事情並内鮮人の融和關係

大正七、八年頃東京運河株式會社が運河開さくに當り、之が工事に従事する目的を以て來住するものを初めとし、其後當方面の工場に職を求めるため漸次來住増加せるものである。而して當方面に於ける内鮮人

は何れも質朴であり、互に親睦を旨とし圓満融和にしてゐる。

以上の外に芝浦、品川、大崎、向島、立川、八王子市方面に密集地區があるが、稍々廣範に亘り分散在住し、獨身者としては、相愛會館、大同協會、力行社、東光一心會、榮尚協會等の保護施設内及び其の周圍に密集するものがあり、また人夫請負業者の部屋住るのものも見逃し難い状態にある。